

蘇る「古代からのメッセージ」

東北大学附属図書館・北青葉山分館、そのエントランス・ホールで私たちを穏やかに迎え、「古代からのメッセージ」を語りかけていた彫刻のことを憶えておられますか。

彫刻「古代からのメッセージ」は、昭和 61 年（1986 年）5 月 27 日、構想 20 年のときを経て新館竣工となった附属図書館北青葉山分館に、東北大学薬学部同窓会から寄贈したものです。製作者は、石巻出身の気鋭の彫刻家・星 眞子先生（現在は創作活動の拠点をイタリアに置かれて活躍中）です。爾来 25 年、黒御影石から丹念に彫り起こされた彼女（彼）は、青葉山に集う学徒の志と夢を静かに見守り続けてきました。

平成 23 年 3 月 11 日、午後 2 時 46 分に発生した巨大地震は、東日本全体を激しく揺り動かし、東北地方太平洋沿岸地域を壊滅に追い込み、仙台市、そして私たちの東北大学にも深い傷を負わせました。（薬学部・薬学研究科が被った甚大な被害については、同窓会ホームページに掲載・報告させていただいております。）この巨大地震は、これまで一度たりとも持ち場を離れることなく 25 年も立ち続けてきた推定重量 1 トンの彫刻を宙に浮かせ、3 つの石塊に分裂せしめました。揺れの大きさもさることながら、驚くべきは、この石の強さです。1 メートル以上もの高さから落下し、コンクリートの床を砕きながらも、自らは原型を留めていたのです。



余震活動が沈静化してきた 5 月中旬、折良く実家に帰省中の星 眞子先生と電話連絡が取れ、その翌日には、青葉山までお出かけ頂きました。幸いにも、星先生より「修復可能」とのご判断をいただくことが出来ました。そして 6 月 14 日にはイタリアに戻らなければならないというタイトなスケジュールを押して、薬学同窓会からの「古代からのメッセージ」の修復要請を受けて頂くことができたのです。



特異な形状をした重量 500 ㌔強の石には圧倒的な存在感があります。これを丁寧かつ慎重に、高度な技術と戦略、そして愛情をもって、着実に復元作業が進められていきました。



かくの如く「古代からのメッセージ」は、平成 23 年 6 月 5 日（日）に復活を果たしました。このことを東北大学復興の一物語として、同窓生の皆様にお報せ申し上げます。

謝辞：休日にもかかわらず、ご対応いただいた北青葉山分館の小幡さん、佐々木さん、写真撮影いただいた薬学部庶務の小山田さんに心より感謝申し上げます。

（東北大学薬学同窓会幹事長・岩渕好治）